

中野区立第二中学校学校だより

若葉 第226号



令和3年3月24日

令和2年度第10号
発行者：校長 松田 芳明
広報委員会

「新年度に向けて」

今年度は、コロナに明け、コロナに暮れた1年間でした。そうした中でも、生徒の皆さんが、できることを一つ一つ丁寧に取り組んでくれたことが、大きな救いでした。ワクチン接種が始まり、少しずつ状況が変化していくものと考えますが、変異種が現れるなど、まだまだ、コロナウィルスの状況が不透明で、予断を許さない状況が続くものと考えています。

さて、新年度から生徒会とコラボレーションして、『**二中を世界に誇れる学校にしよう**』というスローガンを掲げたいと考えています。また、学校教育目標も見直し、新たな目標といたします。

<新 教育目標>

中野区教育ビジョン、中野区教育委員会の教育目標の精神の基つき、生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力をはぐくむとともに、規範意識の高い、心身ともに健やかな生徒の育成を目指す。

【自律、尊重、創造、挑戦】

- ◇自ら考え、判断し、行動する生徒の育成
- ◇違いを理解し、他者を尊重する生徒の育成
- ◇豊かな発想をもち、創意工夫する生徒の育成
- ◇変革やチャレンジをし続ける生徒の育成

旧 教育目標

- ◇学習に励む
- ◇自己を見つめる
- ◇相互に高め合う
- ◇体力をつける

新旧の教育目標を見比べて見ていただくと、気が付いていただけるかと思いますが、生徒の皆さんが、主体性を発揮してくれることを期待しています。逆な見方をすれば、主体性を育てていかなければならないということになります。

さらに、学校生活の中で、生徒の皆さんに意識してほしい2点を述べさせていただきます。

◇人が集まれば、人の好き・嫌い、馬が合う・合わないなど、友人関係を巡る問題は、大人でもあります。中学生として、偶然集まった人々と、一定の人間関係を構築し、その集団で一定以上のパフォーマンスを上げることができる集団であることが大切です。リーダーを引き受けてくれた人に協力し、リーダーも集団に対して気遣いをすることが大切です。

◇上級生は、下級生よりもいろいろなことができます。部活動等で、上級生が率先垂範し、誰よりも早く来て、下級生に指示をしながら準備をする。終了時も、上級生が中心となって効率よく後片付けをする。試合に行く際の荷物も、上級生が管理する。このようにより効率的な部活運営を上級生が下級生に教え、伝えていき、先輩・後輩の信頼関係を構築してほしいと思います。(スポーツ等の技能が高いことよりも、部活動全体に気を配り、リードしていくことができる上級生が尊敬される部活であってほしい。) 信頼・尊敬される上級生、素直に上級生から学ぶ下級生、そうした、先輩・後輩のあり方を伝統としてもらいたい。

新しい評価の観点『主体的に学習に取り組む態度』について

東京都教育委員会資料「子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
指導と評価の一体化を目指して」より

この評価（観点）は、

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、**自らの学習状況を把握し、学習のすすめかたについて試行錯誤をするなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。**

ものです。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、上述のような意思的な側面を評価することが重要です。

「主体的に学習に取り組む態度」については、

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、**自らの学習を調整しようとする側面**

という二つの側面を評価することが求められています。

例えば、保健体育の「E 球技」においては、学習指導要領で身に付けるべく指導する内容について、次のように記載されています。

(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

この抜粋した(3)が「主体的に学習に取り組む態度」そのものが体現された状況となります。

- ①球技に積極的に取り組む
- ②フェアなプレイを守ろうとする
- ③作戦などについての話合いに参加しようとする
- ④一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする
- ⑤仲間の学習を援助しようとする
- ⑥健康・安全に気を配る

この(代表的な)6つの態度のために、児童・生徒一人一人がどの様な行動をとろうとした(意思的な側面)かについて、学習カードへの記述や授業中の発言、教師による行動観察や、児童・生徒による自己評価や相互評価等の状況を用いて評価していくことになります。

他の教科においても、例示した保健体育科と同様に、単元ごとに設定し、具体的に評価を行っていくこととなります。

1 学年

スポーツ大会

3月24日(水)の1,2校時に、スポーツ大会が行われることになりました。円滑な大会運営のため、体育実行委員が中心となって、種目やチーム編成、ルールなど、様々なことを話し合いながら決めました。先週スポーツ大会たよりが実行委員会から発行されました。

種目

晴れの場合・しっぽ取り
・アルティメット

雨の場合・しっぽ取り
・円陣パス

ルールなどととても詳しく説明されています。今から配布されたスポーツ大会たよりを熟読し、本番に備えましょう。最後の学年行事になります。悔いの残らないよう、一致団結して全力を尽くし、いい思い出となることを願っています。



3年生の進路の話を聞く会

3月17日(水)に、3年生の進路の話を聞く会が行われ、1年生はGoogle Meetで参加しました。部活動との両立やスマホ・ゲームとの付き合い方、いつから受験に対して意識を持ち始めたかなど、様々な質問に対しての回答を具体的に訊くことができました。ここで感想をいくつか紹介します。

- ・落ちてもしようがないという思いを持ちながらも、受かっているといいという気持ちでいようと思いました。
- ・受験の3分の2が1,2年のことなのは意外だった(3年ののがもっと多いと思った)。
- ・個人の意見だから謎なことだったり本当にそこまでやらなきゃいけないのかと不安や疑問が少し高まってしまった。
- ・3年生の話を聞いていると、もっと早く勉強していればよかったと後悔している人が多いと思いました。
- ・私は勉強が嫌いです。塾も嫌いです。今回の話を聞いていると、なんでそんなに勉強する意識が出るのか、とても不思議に思います。そんなことを言っている私でも、今回の演説では心が少し動かされました。志望校は決まっていますがなかなか勉強の意識が高まらない私への応援になりました。



同じ日に3年生のメッセージ動画や合唱を視聴する機会もあり、3年生への思いが深まり進路などのことも考え始めるきっかけとなった1日となりました。

2 学年

今年度はコロナの影響を大きく受け、行事も、部活動もなかなか思うように実施することができなかった為、三年生のパワーあふれる姿を見ることも、一年生をリードする機会も失ってしまいました。本来なら自分達の持っている力を応用しながら発揮することができる学年なのでとても残念に感じています。

しかし、限られた校内での生活の中で、できる限り一生懸命に部活動に参加し、学習を中心とした時間割にもよく取り組んできたと思います。後、一ヶ月で三年生に進級です。17日の「三年生の進路の話を聞く会」等も参考にしながら進級する心の準備をしましょう。

最後に、今後さらに意識してほしいことを2つ挙げたいと思います。

一つは「自分から、やることを見つけていこう。」です。指示されたことに一生懸命取り組み、その成果が出ている生徒が多くいます。しかし、それだけではもったいないです。ノートの取り方一つでも自分のために板書以外のことを記入したり、自分から調べたことを足すことができると良いと思います。宿題や提出を義務つけられた課題をこなすだけでなく、正しく覚える事や覚えた知識を活用する家庭学習の方法を考え・実行してほしいと思います。

二つめは「積極的にコミュニケーションをとって、自分の意見を言えるようになろう。」です。4月には新しいメンバーでの生活が始まります。慣れ親しんだ友人の関係も大切にしながら、勇気を持って新しい友達と関係を築き、多くの活動をしてほしいと思います。

I 組

「集団で行動する時のきまりや交通マナー、安全意識を身に付ける」「感染症対策をとりながら仲間との交流を図り、学級の絆を深める」「買い物学習を通して、生活に生かせる計算力を培い、社会経験を積む」ことを目的として校外学習に行きました。

ひまわり学級に外から挨拶をしたり、新宿中央公園で都庁を背に記念撮影をしました。東京乗馬倶楽部ポニー公園でポニーを眺めて休憩した後に、参宮橋商店街で「買い物学習」をしました。1,500円の予算に収まるようにお弁当代や飲み物代を考えて買い物をしました。買いたい物と残金を考え、概算しながらの活動は金銭感覚を身に付けるための貴重な経験です。目的地の代々木公園に到着し、昼食を取った後は、班に分かれて「謎解きオリエンテーリング」をしました。様々なミッションに協力しながら挑戦し、全ての班が最後のミッションである「あいぐみさいこう」のキーワードを校長先生に報告することができました。



特別支援教育コラム

子どもたちは、生活を送る中で大なり小なり様々なストレス（日常生活で遭遇する様々な出来事や刺激）があります。特に昨年度末から新型コロナウイルス感染症対策による休校や自粛など今までにはない制限された学校生活を送っています。しかし、子どもはストレス状態にあっても自ら気付いて言葉で教員や保護者、友達に伝えることは難しいです。その代わり、発熱や腹痛などの身体症状が現れたり（身体化）、かんしゃくや反抗的・攻撃的な行動、不登校などの行動となって表出したり（行動化）します。身体化・行動化したところから立ち直ることを学び、身に付けることも必要ですが、まずはストレスの予防が優先されるべきです。過剰なストレス状態にあることを周囲が気づき、適切な対応をしてあげることが大切です。そのための一番の方法は、子どもの普段の様子をしっかりと把握することです。子どもと関わる大人が、「いつもと何か違う」と感じたら、様子をよく観察するようにします。そして、その情報を共有（学校と家庭など）し収集することでストレスの原因を特定し、軽減することができます。改めて、学校と家庭が連絡を密にして協力することが、一人ひとりに合った適切な支援をしていく第一歩なのだと思います。